

## 平成 23 年度第 3 回 IODP 部会執行部会

日時:2011 年 7 月 11 日(月)14:00~17:30

場所:JAMSTEC 東京事務所 大会議室

出席者:

執行部:川幡穂高(部会長・東京大学大気海洋研究所) 西 弘嗣(部会長補佐・東北大学)  
井上麻夕里(東京大学大気海洋研究所) 木村純一(海洋研究開発機構) 小林励司(鹿児島大学)  
鈴木庸平(東京大学) 辻 健(京都大学) 中村恭之(海洋研究開発機構)  
七山 太(産業技術総合研究所) 道林克禎(静岡大学) 村山雅史(高知大学海洋コア総合研究センター)  
森田澄人(産業技術総合研究所) 横山祐典(東京大学大気海洋研究所)

オブザーバー:

CDEX:江口暢久  
文部科学省海洋地球課:柴田晋吾  
事務局:菊田宏之 梅津慶太(CDEX)

欠席者: 中西正男(千葉大学)

### 議事次第(案)【担当(敬称略)】

1. SASEC 会議報告【川幡】..... 資料 1、2-1、2-2
2. 国内専門部会改組について【事務局】..... 資料 3-1、3-2、4
3. J-DESC の経費執行の流れについて【森田、事務局】..... 資料 5
4. IODP 国内支援に基づく旅費支給に関する注意事項【事務局】
5. PEP、SIPCom メンバー選出報告【事務局】..... 資料 6
6. 掘削航海関連【事務局】
  - ・Exp. 339, 340, 341 ノミネーション状況..... 資料 7、8
  - ・続・JOIDES Resolution の運航時間について
  - ・Exp. 342 Newfoundland Sediment Drifts 乗船者募集開始 ..... 資料 9
7. CDEX 報告【江口】
8. 各担当からの報告
  - ・船上ビデオのホームページ公開について【森田】..... 資料 10
  - ・IODP キャンペーン@東北大学(10/9、10)【事務局、辻、七山】
  - ・各専門部会・その他活動【各担当(あれば)】
9. その他
  - ・その他報告事項など
  - ・次回執行部会開催日程確認

### 配布資料

資料 1	#12 SASEC 会議報告書+Executive summary	資料 7	Exp. 339~341 乗船応募者リスト
資料 2-1	新 SAS 組織図	資料 7-1	IODP 掘削航海関連情報
資料 2-2	新 SAS Terms of Reference	資料 8	これまでの航海の乗船応募者
資料 3-1	技術開発系部会のあり方に関する提言その 1	資料 8-1	所属別乗船研究者数(Exp. 301~337)
資料 3-2	技術開発系部会のあり方に関する提言その 2	資料 9	Exp. 342 Newfoundland Sediment Drifts
資料 4	技術開発推進専門部会会則	資料 10	「J-DESC ホームページでの船上ビデオ公開」に関わる提案
資料 5	学会支援機構への振込み依頼等について		
資料 6	PEP、SIPCom メンバーローテーション		

## 議事録(案)

### 1. SASEC 会議報告【川幡】.....資料 1、2-1、2-2

川幡部会長より説明がなされた。

- ・ 6/14～15 にアムステルダムで開催された。
- ・ 主な議決事項として、東北沖地震断層緊急掘削計画 (RRD) の Detailed Planning Group (DPG) 報告がなされ、地震断層滑り面の捕捉、温度測定、2012 年 7 月までの掘削完了、水深 6~7km、海底下 1km の掘削が推薦事項として決議された。
- ・ また、この計画で地震の断層滑り面の捕捉ができそうにない場合は掘削する意味は無いため計画自体を直ちにやめるべきとの合意がなされた。
- ・ 新しい SAS の Terms of Reference の案が承認された。(執行部会後に確認された事項として、SASEC 会議時に TP が STP に名称変更されることが ToR の承認に含められた形で合意された。これは SASEC の Executive Summary には記載は無い。)
- ・ EDP に代わる技術開発系の組織 (Engineering Advisory Group) の立ち上げも検討されたが、掘削技術の開発などはそれぞれの掘削計画 (プロポーザル) に基づき、IO がタスクフォースを立ち上げることで対応することが合意された。
- ・ JR の航海が 3 航海/年に減少することが USIO より報告された。
- ・ SIPCom は来年 2 回実施予定 (最初の会議はインド)。

IWG+での議論内容について柴田氏より報告がなされた。

- ・ 次期計画の基本的な枠組みについて合意がなされた。
- ・ IODP Council が PGB にかわる。
- ・ 欧州が 2 年に 1 度だった掘削航海を毎年に変更することにより、結果として Comingled found が減額になる。その他諸々の事情により、ちきゅうに対する Comingled found からの充当が減る。
- ・ また、競争的資金を設け、IO や SIPCom において Review、推薦し、PGB で決定することも合意された。

### 2. 国内専門部会改組について【事務局】.....資料 3-1、3-2、4

川幡部会長より SASEC の決定について説明がなされた。

- ・ 技術開発は重要であること自体は誰もが認識している。一方で、SASEC での結論として、EDP は廃止することが決定した。

中村委員より国内での状況について説明がなされた。

- ・ SAS の改組について国際的に検討がされ、EDP が廃止されるかもしれないという情報が出てきた時期に、技術開発推進専門部会内にタスクフォースが発足し、国内の技術開発系部会のあり方について検討し、提言を行っている(資料 3-1、3-2)。

以下、コメント等

- ・ 基本的には専門部会はサービスパネルに対応した形で設置するのが良い。
- ・ IO に責任のある技術開発に関する機能を J-DESC の下に置くことが相応しいかどうかは検討の余地がある。
- ・ これまで各プラットフォームに共通する問題の解決のための検討を EDP で行ってきたものの、共通の問題は比較的少なく、むしろ各プラットフォームに固有な問題を解決する方にウェイトがある。
- ・ これまで技術開発推進専門部会として活動してきた方々を人材リストとしてキープし、執行部の要請に基づき活動してもらおうようなワーキンググループ的な位置づけはどうか。

**合意項目 (110711-01) : EDP が継続しないことが先の SASEC で決定したことを受け、J-DESC においてこれまで EDP に対応してきた技術開発推進専門部会を少なくともそのままの形で継続はしない。専門部会の改組については、より詳細を検討し次回決定する。**

### 3. J-DESC の経費執行の流れについて【森田、事務局】.....資料 5

森田委員より資料 5 に基づき、説明がなされた。

- ・ 2 度手間をなくすため、経費執行者が証憑類を直接学会支援機構に送るという手続きに変更してはどうか。

- ・ その際には、統一フォーマットのレター(資料5裏面)をつけて送る。それと同時に森田委員にメールを送る。
- ・ 執行部旅費については、証憑類の提出が必要ない(飛行機を使っていない)場合は書類の提出は必要ない。

**合意事項(110711-02):上記の案を承認し、運用する。**

**4. IODP 国内支援に基づく旅費支給に関する注意事項【事務局】**

標記の件について事務局より説明がなされた。

- ・ CDEX 国内支援での旅行は現地での休暇は認められていない。
- ・ Exp. 335 の乗船研究者 1 名が帰国の際の米国出国時にロサンゼルスで止められ、数日滞在した。これについて事務局より理由書の提出を求めているが明確な返答はもらっていない。
- ・ 旅程の変更について事務局には何の連絡もなかった(事務局がそのことを知ったのは出張者が帰国後、旅行会社からの連絡を受けてのことだった)。

**合意項目(110711-03):該当者に対して、米国出国時に止められた詳細な理由書を提出するように求める。まずは事務局から改めて求める。**

(執行部会後に確認された事項)

- ・ 出国時の Immigration の問題(今回の出張以前の出国手続きの問題)により足止めされ、予定していた飛行機に乗ることができなかった。
- ・ そのため、空いている便に乗れるのが数日先になった。
- ・ その後も事務局と該当者間で連絡を取っている。

**5. PEP、SIPCom メンバー選出報告【事務局】.....資料6**

事務局より資料6に基づき、標記の件について説明がなされた。

- ・ PEP は候補者 10 名全員から承諾の連絡をいただいた。
- ・ SIPCom は 5 名のうち 4 名から承諾の連絡をいただいた。残り 1 名を教授クラス、ジオハザード関連分野で探している。

**実行項目(110711-04):地震学と連携できる人材を中心に声をかける(実行者:小林委員、中村委員)**

**6. 掘削航海関連【事務局】**

事務局より以下の件について報告がなされた。

**•Exp. 339, 340, 341 ノミネーション状況.....資料7、8**

- ・ 339 は当初 6 名に Invitation が送られたが、1 名が辞退したため、追加募集を行っていた。その後、1 名から応募があり、現在掘削航海専門部会にて評価中。
- ・ 340 は 7 名応募があり、ミネーションが完了している。このうち 3 名にはすでに Invitation が送られた。USIO からはミネーションされる応募者の Field of Expertise が偏りすぎているため、なんとかしてほしい旨のコメントがあった。
- ・ 341 は 8 名+1 名(Onshore)のミネーションが完了している。本来 Onshore への応募は PMO では受け付けていない。

**•続・JOIDES Resolution の運航時間について**

- ・ SASEC 会議に合わせて行われた IOCP Council 会合で、FY11 での余剰金 2.9 万ドルの一部を FY12 の JR 運航への使用を認めることが合意された。
- ・ そのため、それまで FY12 の航海が 4 航海から 3 航海に減少することが通達されていたが、FY12 に限っては 4 航海に復活する。
- ・ しかしながら、当初スケジュールリングされていた Exp. 341 Alaska Tectonics, Climate, and Sedimentology は FY13 以降に延期のまま、新たに Exp. 342 Newfoundland Sediment Drifts がスケジュールリングされた。

**•Exp. 342 Newfoundland Sediment Drifts 乗船者募集開始.....資料9**

- ・ 新たにスケジュールリングされた Exp. 342 の乗船者募集を開始した。
- ・ 航海期間は 2012 年 6 月～8 月
- ・ 募集〆切は 9/15。
- ・ Co-chief はまだ決定していない。
- ・ USIO へのノミネーション期限は 11/1。

・航海乗船について

資料 8 および 8-1 に基づき、西部会長補佐より説明がなされた。

- ・ 今後乗船枠を埋めることが難しい。
- ・ 韓国などの周辺諸国に対して、日本が損しないように枠を譲り渡すことができるシステムを構築する必要がある。
- ・ IWG+での合意に基づけば、「ちきゅう」と JR のそう乗船者数の増加に伴い、日米の研究者は乗船枠が 10 名になる見込み。
- ・ 本件については次回以降、検討する。

7. CDEX 報告【江口】

- ・ 駿河湾において実施していた 5 基のスラスターでのテストは無事成功した。
- ・ 昨日、Non-IODP の掘削目的でスリランカに向かった。12 月いっぱい資源掘削を行う。
- ・ 4 月以降に IODP 部復帰する見込み。

8. 各担当からの報告

・船上ビデオのホームページ公開について【森田】.....資料 10

森田委員より、資料 10 に基づき、標記の件について説明がなされた。

- ・ J-DESC のアピール活動の一つとして、船上で撮影したビデオを J-DESC のホームページに公開する(前期の執行部において検討された)。

**実施・合意項目 (110711-05) : 今後の乗船者 (Exp. 339) に対して乗船中のビデオ撮影をお願いする (実行者: 七山氏)。また、ビデオのウェブアップロードに関するルールと方法を検討する。**

・会員提案型活動経費について

村山委員より、標記の件について説明がなされた。

- ・ 愛媛大学の堀さんからの提案については、30 万円の申請額のところ 25 万円で採択。

・コアスクール微化石コースについて

**合意項目 (110711-06) : 秋田大学が負担することになっていた消耗品類 (77,000 円) も J-DESC で負担する。**

・IODP キャンペーン@東北大学(10/8、9)【事務局、辻、七山】

事務局より標記の件について報告がなされた。

- ・ 10/8、9 に東北大学のキャンパス公開イベント片平まつりが開催される。
- ・ これに合わせて、IODP キャンペーンとして展示と講演会を実施する。
- ・ 講演会は 10/9 で講演者は平野直人氏(東北大学)と日野亮太氏(東北大学)。
- ・ 平野氏には Exp. 324 の乗船研究参加の体験談、日野氏には Rapid Response Drilling についてそれぞれ講演してもらう予定。
- ・ 東北大学側のコンタクトパーソンである石渡氏と事務局とで調整を行っている。

・各専門部会・その他活動【各担当(あれば)】

特になし。

・Neville Exon 氏 (ANZIC) 来日に関する IODP-MI からの要請について

事務局より標記の件について説明がなされた。

- ・ 9/26 の週に ANZIC 代表の Neville Exon 氏が IODP-MI のアウトリーチ・タスクフォース会合に出席する単に来日する。

- ・これに合わせて、日本のコミュニティーに向けて ANZIC の活動を紹介したいので、J-DESC が主催で講演会を開催してほしい旨の申出が IODP-MI よりあった。

**合意項目 (1107/11-07) :Neville Exon 氏より来る予定の詳細な情報を待つて主催するかどうかを判断する。**

## 9. その他

- ・その他報告事項など

プロポーザルの育成とレクチャーコースについて

川幡部会長より、標記の件について説明がなされた。

- ・今後の J-DESC の活動は、プロポーザルの種の発芽までを担当する。種になるようなものがあれば紹介してほしい。今年度に 10 個の種を見つけて J-DESC の経費でのワークショップ開催を目指す。
- ・発芽以降の成長段階では CDEX の国内支援 (IODP 掘削提案フジビリティ研究)、さらにその後の国際的で大規模なものについては IODP-MI のファンディング (Workshop proposal) を利用し、国内研究者のプロポーザルを育成していきたい。
- ・各研究者の専門分野以外の知識を蓄えることを目的として、レクチャーコースの実施を提案する。博士号を持っている人以上を対象に、(異分野も含めて) 知識を蓄えるためのコースを開催したい。
- ・PEP などの SAS 委員になるような人やプロポーザルを執筆する人にとって有益になればと考えている。
- ・Geohazard、Petrology、Environment、Life で各テーマいくつかの講義を行う。講師には各分野のベテランな内容にホットな話題を含めて講義をしてもらう。
- ・講義の PPT は参加者のみに配布する(パスワード付きダウンロードページを利用)。
- ・今年度準備し、来年度開催を目指したい。

**合意項目 (110711-08) :プロポーザル育成およびレクチャーコースの概要については合意する。実施方法など詳細については今後の議論で決定する。**

柴田企画官より、標記の件について以下の件について報告がなされた。

ICDP の AOG

- ・次期 MSP 航海の最有力とされている Chicxulub は ICDP の AOG で差し戻された。

高知コアセンターについて

- ・NSF の Jaimie Allen 氏から高知コアセンターを IODP の Obligation の枠を超えて、(分析機器等を) 世界にオープンにできないかとの打診があり、その関係で 8 月に Jaimie Allen 氏が来日する。
- ・以前川幡部会長にもこの話があり、J-DESC からの IODP への乗船者がサンプルを獲得する際に不利になる可能性があるため、賛成できない。オープンにするのであれば他のレポジトリもオープンにするべきであるとのコメントを出した。

- ・次回執行部会開催日程確認

9 月下旬～10 月上旬

Neville Exon 氏からの連絡等も考慮した上でメールにて調整する。

<今後の検討事項>

- ・専門部会の改組について(合意項目 110711-01)
- ・乗船枠の譲渡に関して
- ・船上ビデオの公開方法・ルールについて(合意項目 110711-05)
- ・ANZIC の活動紹介講演会について(合意項目 1107/11-07)
- ・プロポーザル育成およびレクチャーコースについて(合意項目 110711-08)